



日邦産業株式会社

(証券コード : 9913)

2023年3月期 第2四半期 決算補足資料

2022年 11月4日

代表取締役社長

岩佐 恭知

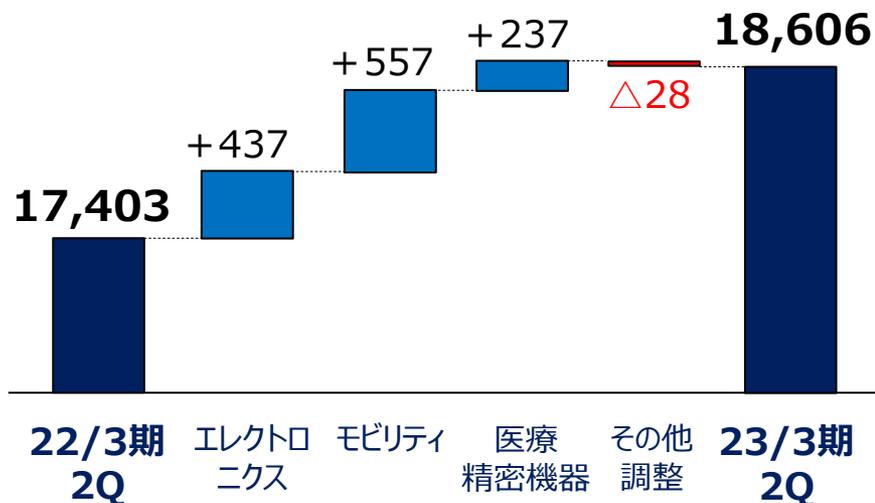
23/3期 2Q 連結業績 (1)



(単位：百万円)

科目	22/3期 2Q	23/3期 2Q	前年同期比	増減額
売上高	17,403	18,606	107%	+1,203
営業利益	641	929	145%	+288
経常利益	651	905	139%	+254
四半期純利益	467	590	126%	+123

【売上高】



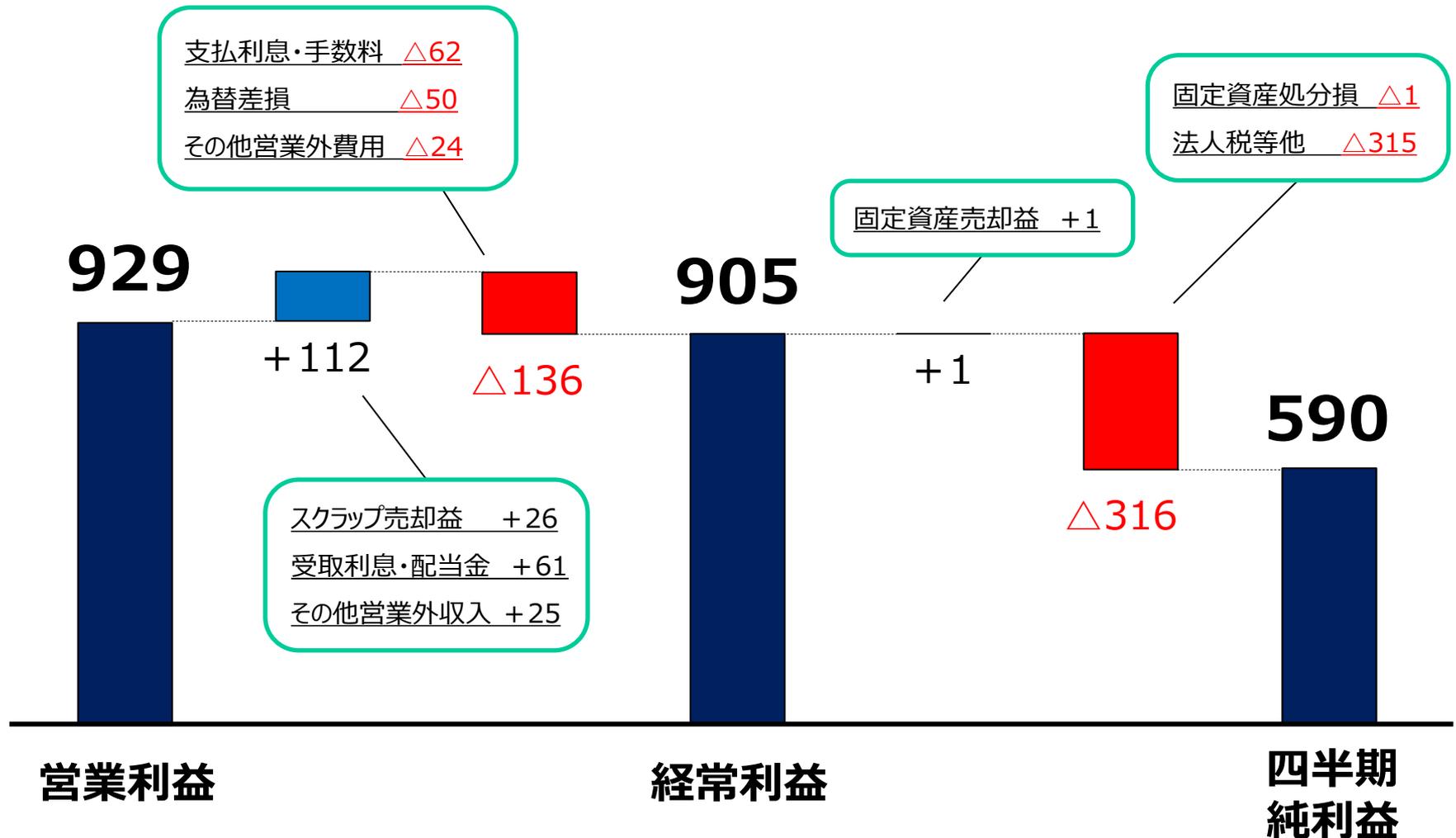
【営業利益】



23/3期 2Q 連結業績 (2)



(単位 : 百万円)



23/3期 通期 連結業績予想



～今後の社内外動向の業績への影響を踏まえ、通期の連結業績予想と年間配当予想を上方・増額修正しました。～

(単位：百万円)

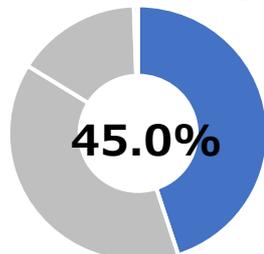
科目	23/3期 2Q	23/3期 通期予想	2Q 進捗率	通期 連結業績予想と年間配当金について
売上高	18,606	37,500	49.6%	<p>1. 通期 連結業績予想 半導体供給不足による影響が想定よりも改善したことに加え、今後の顧客動向、社内における業績基盤の強化活動の効果、高騰し続けている動力費(うち本年度内に販売価格への転嫁が難しいと思われる金額)、及び円安の進行等を踏まえ、通期の連結業績予想を左記の通り上方修正しました。</p> <p>2. 年間配当予想 通期の連結業績予想を上方修正したことから、年間配当金を1株当たり「28円」から2円増配し、「30円」に増額修正しました。</p> <p>※なお、本通期業績予想の計算に用いた為替換算レート(期中平均レート)は、1米ドル130円、1タイバーツ=3.6円となります。また、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいた予想値であり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる結果となる可能性があります。通期業績予想の見通しに修正が必要と判断される場合は、改めて公表させていただきます。</p>
営業利益	929	1,550 → 1,790 (+240)	51.9%	
経常利益	905	1,450 → 1,710 (+260)	52.9%	
当期純利益	590	1,050 → 1,170 (+120)	50.4%	
年間配当金	—	1株当たり 28円→ 30円 (+2円)		

セグメント別業績（エレクトロニクス）



売上高構成比

（単位：百万円）



増収

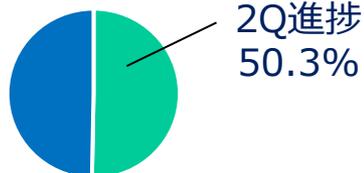
増益

	22/3期 2Q累計	23/3期 2Q累計	前年同期比	増減額
売上高	8,014	8,451	105%	+437
営業利益	651	669	103%	+18

2Qの業績概況

- 通信基地局やサーバー向けの配線板材料、ベトナム工場のドライフィルム事業の受注が好調に推移し、半導体ウエハ研磨用キャリアの受注も堅調に推移。
- 顧客生産が回復した給湯機関連部材と介護用ベット関連部材の受注が好調に推移。
- 一方、調整局面に入ったスマートフォン関連部材の受注が伸び悩んだことと、中国ロックダウンによるサプライチェーンの途絶の影響を受ける中で推移。

売上高の進捗



	22/3期	23/3期(見通し)	前年比	増減額
売上高	16,576	16,800	101%	+224
営業利益	1,324	1,200	91%	△124

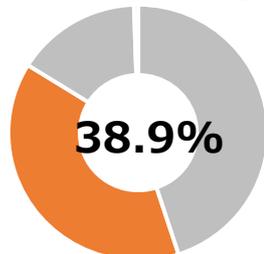
通期の見通し

- 配線板材料やベトナム工場のドライフィルム事業と半導体ウエハ研磨用キャリアの受注は、引き続き堅調に推移する見通し。
- スマートフォン関連部材の受注は、調整局面が長引く可能性もあり、先行き不透明。
- メーカー機能（スリット加工、ウエハ研磨用キャリア、高機能接着剤）を強化するための先行投資と新規開拓にかかる活動費の増加を見込む。

セグメント別業績（モビリティ）

売上高構成比

（単位：百万円）



増収

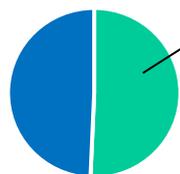
増益

	22/3期 2Q累計	23/3期 2Q累計	前年同期比	増減額
売上高	6,743	7,300	108%	+557
営業利益	613	812	132%	+199

2Qの業績概況

- 国内は半導体不足による顧客の減産影響を受けたが、タイ（バンコク）工場やインドネシア工場などのアセアン主力工場におけるパワートレイン系部品の受注が好調に推移しカバー。
- 自動化やその他コスト競争力の強化による生産性の向上、輸送コストの改善、原価管理を徹底するための会計方針変更（減価償却費を定率法から定額法に変更）等の取組みにより増益。

売上高の進捗



2Q進捗
50.7%

	22/3期	23/3期(見通し)	前年比	増減額
売上高	13,092	14,400	110%	+1,308
営業利益	1,042	1,250 → 1,490	143%	+448

通期の見通し

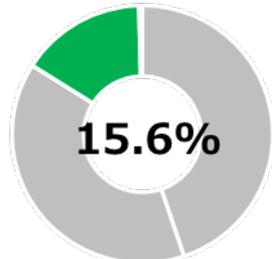
- タイ（バンコク）工場やインドネシア工場などのアセアン主力工場の受注は、継続して好調に推移する見通し。
- 国内工場の受注は、先行きに不透明さが残るが、通期単位では前年並みで推移する見通し。
- 収益性の向上を目的とした「コスト競争力の強化」活動を継続。

セグメント別業績（医療・精密機器）



売上高構成比

（単位：百万円）



増収

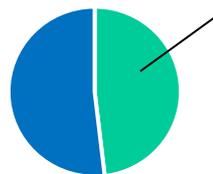
増益

	22/3期 2Q累計	23/3期 2Q累計	前年同期比	増減額
売上高	2,699	2,936	109%	+237
営業利益	△93	△77	—	+16

2Qの業績概況

- 医療機器部品の受注は、タイ（コラート）工場における受託生産が堅調に推移。
- プリンター関連部品の受注は、半導体・電子部品の供給不足による顧客の生産計画の下振れが続く、タイ（コラート）工場とベトナム工場の受注計画が大幅に減少した影響を受け、赤字が継続。

売上高の進捗



	22/3期	23/3期(見通し)	前年比	増減額
売上高	5,941	6,100	103%	+159
営業利益	△17	100	—	+117

通期の見通し

- タイ（コラート）工場の医療機器部品の受注は、引き続き堅調に推移する見通し。
- 医療機器部品の国内生産体制を構築するための先行投資と許認可取得に向けた活動を開始。（本格量産は、2025年度を予定）
- プリンター関連部品の受注は、3Q以降に顧客の生産計画が改善する見込みも先行きは不透明。



参考資料

23/3期 2Q 連結貸借対照表



(単位：百万円)

科目	22/3期	23/3期 2Q	増減額
流動資産	15,582	16,465	+883
現預金	4,580	4,936	+355
受取手形及び 売掛金等	7,576	7,081	△495
たな卸資産	2,811	3,661	+850
その他	612	785	+173
固定資産	10,505	11,851	+1,346
有形固定資産	7,452	8,284	+831
無形固定資産	115	230	+114
投資その他の 資産	2,937	3,337	+400
資産合計	26,087	28,316	+2,229

科目	22/3期	23/3期 2Q	増減額
流動負債	12,586	12,765	+178
支払手形及び 買掛金	7,415	7,692	+277
短期借入金等	3,114	2,887	△227
その他	2,057	2,184	+127
固定負債	3,135	3,548	+412
長期借入金	526	718	+191
その他	2,609	2,830	+221
負債合計	15,722	16,313	+590
資本金	3,137	3,137	-
資本剰余金、利益剰 余金及び自己株式	6,526	6,766	+240
その他の包括利益 累計額	699	2,097	+1,398
非支配株主持分	1	1	+0
純資産合計	10,364	12,003	+1,638
負債・純資産合計	26,087	28,316	+2,229

日邦産業株式会社

経営企画部 水口、藤浪

電話 : 052-218-3161

HPアドレス : <https://www.nip.co.jp/>

将来見通しに関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保障を与えるものではありませんので、将来における弊社の業績が、現在の弊社の将来予想値と異なる結果になることがあることを認識された上で、ご利用ください。

また、業績等に関する記述につきましても信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、弊社はその正確性、安全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、弊社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

本資料における将来の連結業績予想に使用した為替換算レートは、1米ドル = 130円、1タイバーツ = 3.6円で計算しています。

Q1. 国内のモビリティ事業は減収だったのか？

A1. 国内は半導体不足による顧客の減産影響を受け減収となりました。
海外の受注が好調に推移したことで、連結ベースでは増収となりました。

Q2. 昇給・人員増による経費の増加とあるが、その理由・内容は？

A2. 昇給や賞与などの社員還元と、新事業開発への人材投入を進めたことによる人件費の増加影響となります。

Q3. 当第2四半期は過去最高益となるのか？

A3. 第2四半期（累計）の比較で営業利益、経常利益は過去最高益となります。

Q4. 医療機器部品の国内生産体制構築への投資は、本年度に実施するのか？

A4. 本年度はクリーンルームなどのインフラ整備への投資となり、業績への影響は軽微であります。
次年度以降、受注に応じた設備投資を進める計画です。

Q5. 国内の医療機器部品は新規顧客の案件になるのか？

A5. 国内で受注していく製品は、既存顧客の新規品もありますが、新規顧客の獲得を視野に活動しています。
日系の医療機器メーカーは、国内での製造実績を重視されるため、国内における製造体制の構築を進めております。